

富士山の火山活動解説資料（平成 27 年 7 月）

気象庁地震火山部
火山監視・情報センター

2011 年 3 月 15 日に静岡県東部(富士山の南部付近)で発生したマグニチュード 6.4 の地震以降、地震活動が活発な状況となっていました。その後、地震活動は低下してきています。その他の観測データでも浅部の異常を示すものはありません。火山活動に特段の変化はなく、噴火の兆候は認められません。

噴火予報（噴火警戒レベル 1、活火山であることに留意）の予報事項に変更はありません。

活動概況

・噴気など表面現象の状況（図 1）

萩原遠望カメラ(富士山山頂の東南東約 18km)、中部地方整備局が朝霧(富士山山頂の西約 14km)及び富士砂防事務所(富士山山頂の南西約 17km)に設置しているカメラによる観測では、今期間、噴気は認められません。

・地震や微動の発生状況（図 2、図 3）

2011 年 3 月 15 日に静岡県東部(富士山の南部付近)で発生したマグニチュード 6.4 の地震以降、その震源から山頂直下付近にかけて地震が増加しました。その後、地震活動は低下してきています。

23 日に富士山頂の南 6 km 付近を震源とする地震により富士宮市と富士市で震度 1 を観測しました。また、28 日に富士山頂の東 6 km を震源とする地震により富士河口湖町で震度 1 を観測しました(震源はいずれも広域地震観測網による)。

深さ 15km 付近を震源とする深部低周波地震は少ない状況で経過しています。

火山性微動や浅部の低周波地震は観測されていません。

・地殻変動の状況（図 4、図 5）

GNSS^{注)}連続観測では、火山活動によるとみられる変動は認められません。

注) GNSS (Global Navigation Satellite Systems) とは、GPS をはじめとする衛星測位システム全般を示す呼称です。

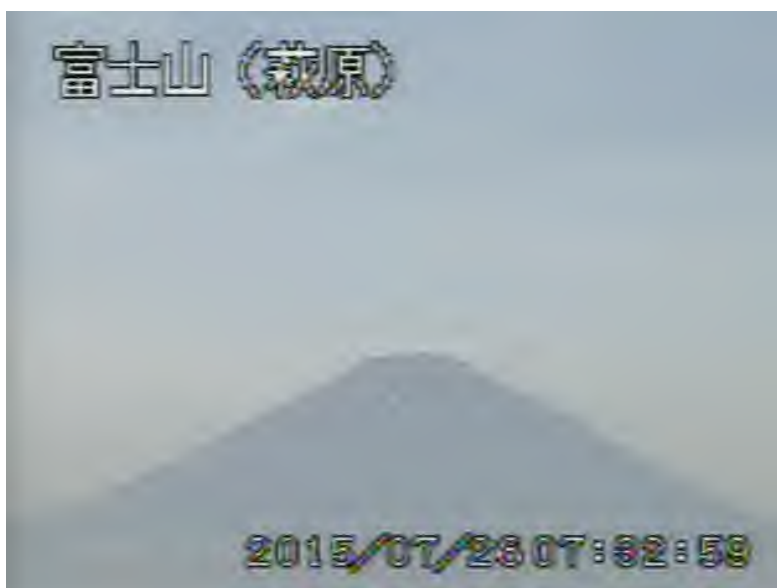


図 1 富士山 山頂部の状況
(7 月 26 日 萩原遠望カメラによる)

この火山活動解説資料は気象庁ホームページ(<http://www.data.jma.go.jp/svd/vois/data/tokyo/volcano.html>)でも閲覧することができます。次回の火山活動解説資料(平成 27 年 8 月分)は平成 27 年 9 月 8 日に発表する予定です。

この資料は気象庁のほか、中部地方整備局、国土地理院、東京大学、国立研究開発法人防災科学技術研究所、山梨県及び神奈川県温泉地学研究所のデータも利用して作成しています。

資料中の地図の作成に当たっては、国土地理院長の承認を得て、同院発行の『数値地図 50mメッシュ(標高)』を使用しています(承認番号:平 26 情使、第 578 号)。

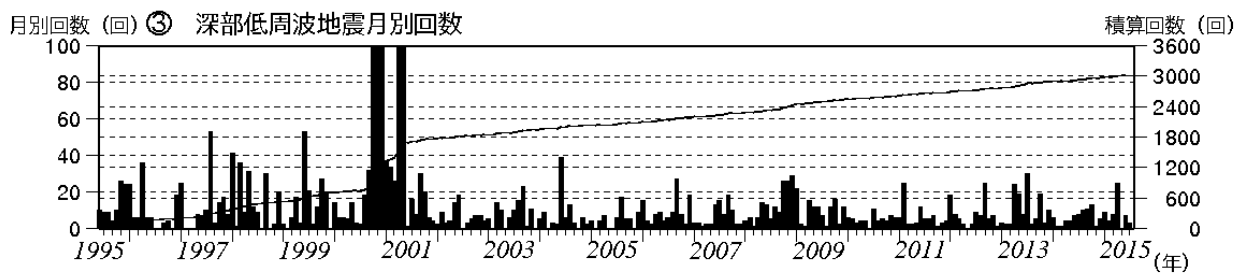
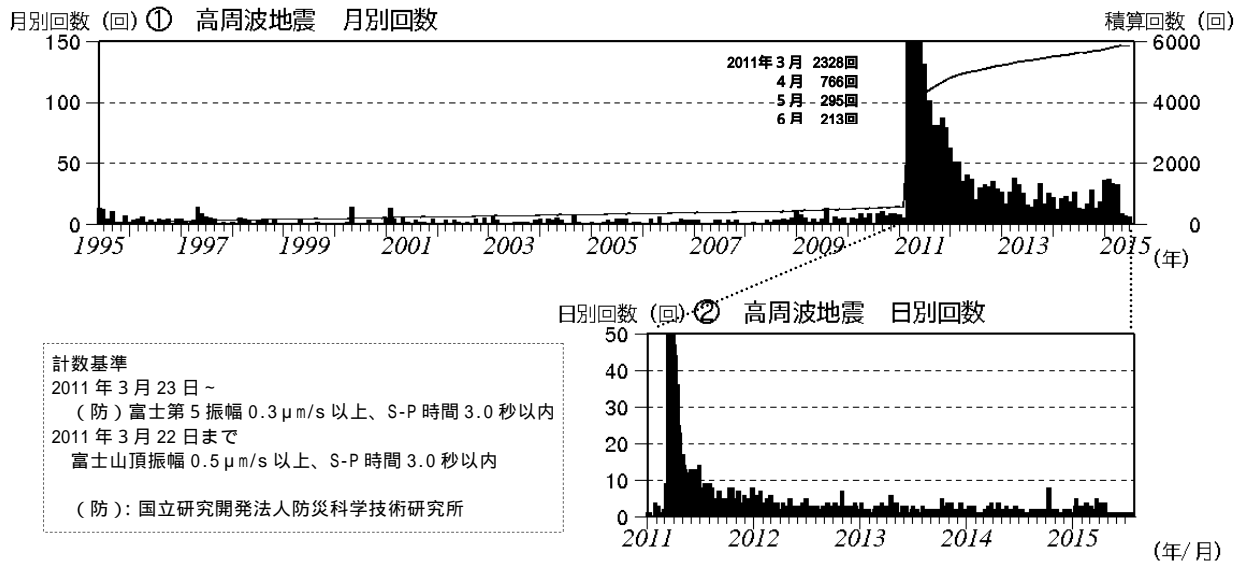


図 2 富士山 月別及び日別地震回数 (1995 年 6 月 1 日 ~ 2015 年 7 月 31 日)

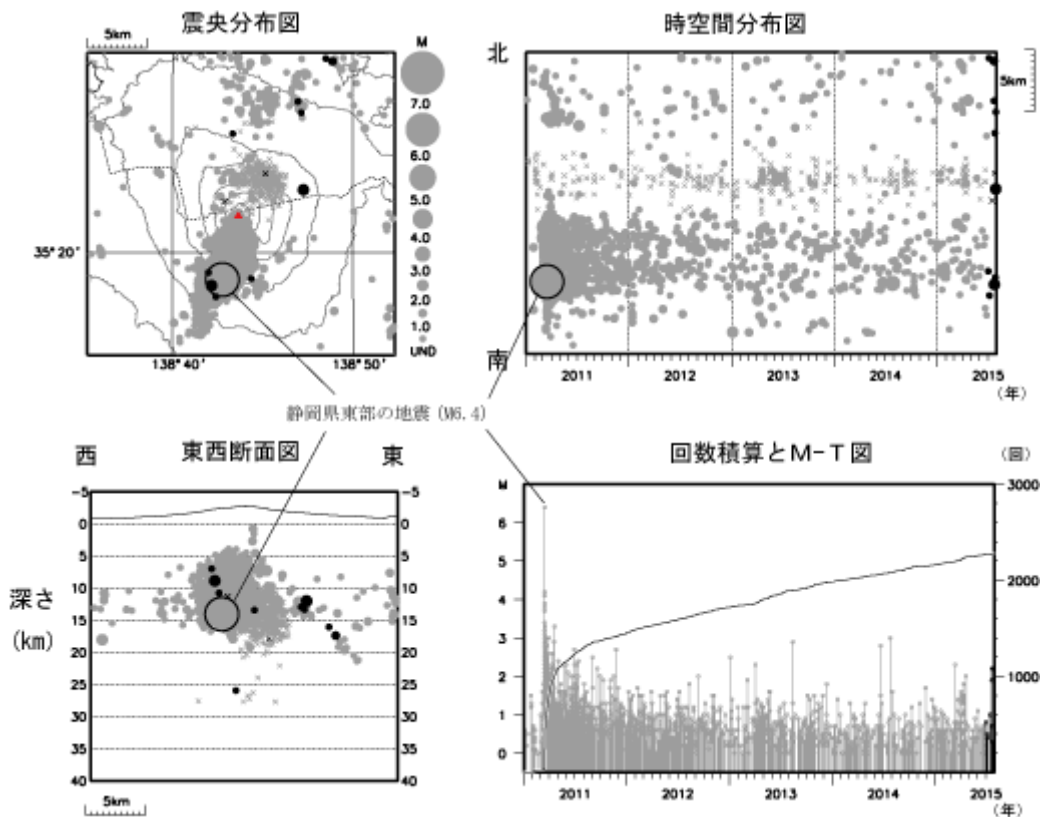


図 3 富士山 広域地震観測網による山体・周辺の地震活動 (2011 年 1 月 1 日 ~ 2015 年 7 月 31 日)
 : 2011 年 1 月 1 日 ~ 2015 年 6 月 30 日 : 2015 年 7 月 1 日 ~ 7 月 31 日
 × は深部低周波地震を表します。M (マグニチュード) は地震の規模を表します。
 図中の震源要素は一部暫定値が含まれており、後日変更することがあります。

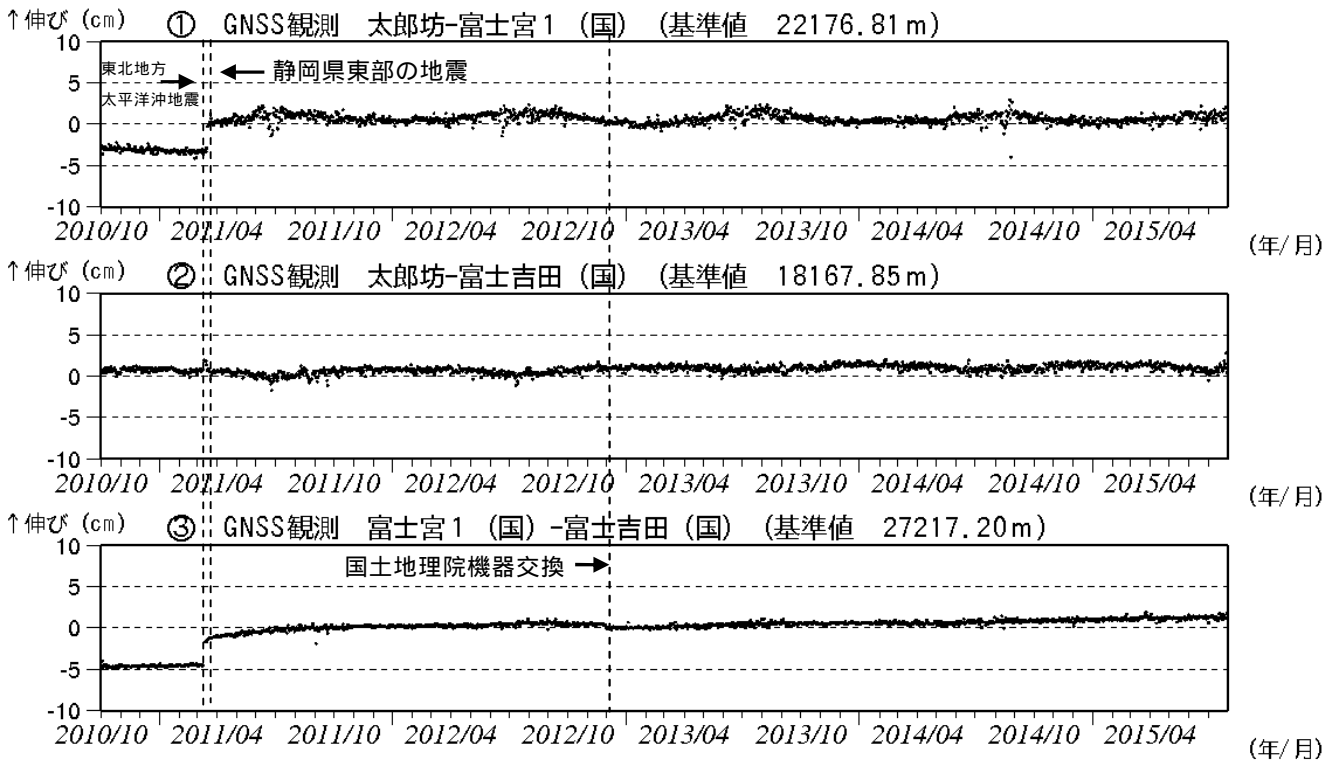
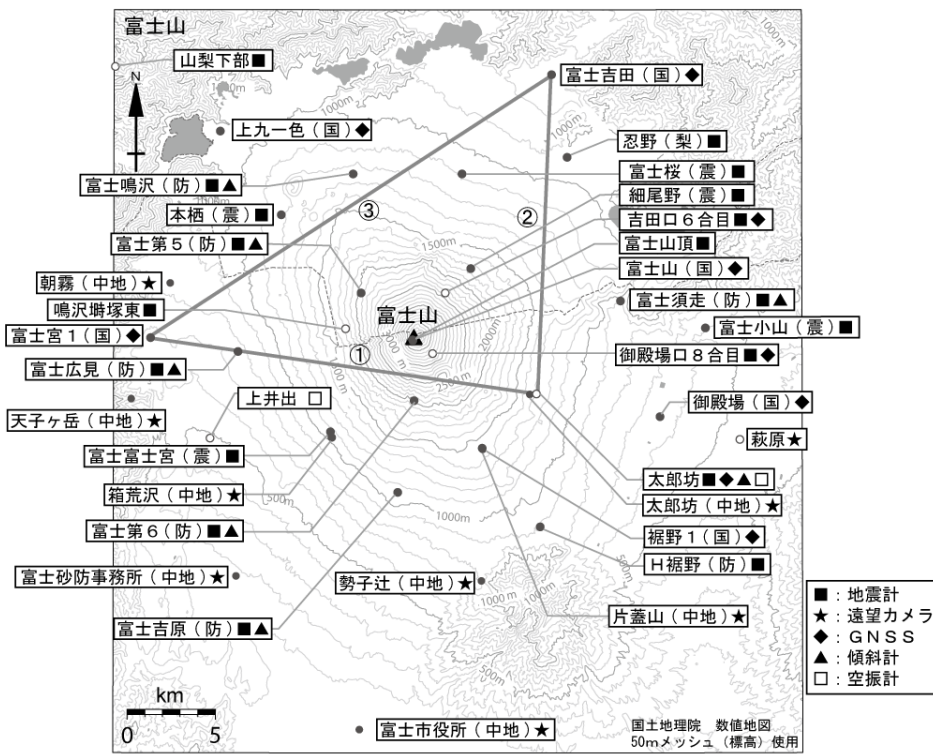


図4 富士山 GNSS 連続観測による基線長変化(2010年10月1日~2015年7月31日)
(国): 国土地理院

2011年3月11日に発生した東北地方太平洋沖地震、及び2011年3月15日に発生した静岡県東部の地震の影響により、ステップ状の変化がみられます。

~ は図5のGNSS基線 ~ に対応しています。グラフの空白部分は欠測を示します。



小さな白丸(○)は気象庁、小さな黒丸(●)は気象庁以外の機関の観測点位置を示しています。
(国): 国土地理院、(防): 防災科学技術研究所、(震): 東京大学地震研究所、
(中地): 中部地方整備局、(梨): 山梨県

図5 富士山 観測点配置図

GNSS 基線 ~ は図4の ~ に対応しています。